第２学年○組　道徳学習指導案

平成２８年　　月　日（　）第　時限２年○組教室

指導者

１　主題名　　人任せはダメ！本当に靖夫は「いいやつ？」

　　内容項目　C－（15）　よりよい学校生活

２　資料名　「いいやつ？」（出典：『中学生の新しい道』文教社）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

　　「よりよい学校生活」を送るためには、自分も集団の一員としてできることを考えていくことが必要である。人任せにせず、一人一人が役割を果たし、みんなで協力することができれば、学級は居心地のよい空間となる。逆に、人任せにしているとどんな学級になっていくのか、人任せはどんな環境から生まれるのかを考えることで、人任せにせず、協力することへの価値やその行為がよりよい学校生活に結びついていくことに気づかせたい。そして、協力することができる集団の素晴らしさが分かれば分かるほど、自分もそのような集団をつくりたいと願うようになり、目に見える行為が生まれるはずである。そんな行為を自分たちで考えさせたいと願い、本主題を設定した。

（２）生徒の実態について

　　本学級は、学級目標を「One for all All for one」にするなど、学級で協力することの大切さを意識して生活してきた。○○コンテストや林間学校のクラススタンツなどの学校行事では、団結する姿が見られ、喜びを分かち合うことができた。しかし、日常生活に目を向けると、自分に与えられた役割は果たすが、それ以外のことは他人事と考える生徒が多い。「それは〇〇さんの仕事」「級長が声かけてよ」など、人任せにする姿が目立ってきた。そこで、本学習を通して、集団の一員としてできることを考えて行動することができるようになってもらいたいと考えた。

（３）資料・指導について

　　本資料は、『主人公の靖夫は、自分の役割ではない係活動や当番活動に進んで取り組む生徒。初めのうちは「点数稼ぎだ」と言っていた周りの生徒も、靖夫の実直な姿を見て「いいやつ」だと思うようになる。しかし、ある日、教室当番の役割であるごみ捨てがされていないことを担任が指摘した際、周りの生徒の「靖夫がやらないから悪い」の声を聞いてしまう。さらに、学級委員からも、靖夫の行動はクラスの子を甘やかしているのではないかと耳打ちされる。再びごみが捨てられていない状況に直面した靖夫は一瞬戸惑うが、ごみ箱を手に教室を出て行く』という話である。

　　まず、「靖夫は今後、どうしたいいのだろう」と問いかけ、今後もごみを捨て続けるか、それとも、もうやらないかの立ち位置を、全員が黒板にネームプレートを置くことで明らかにし、考えを述べ合うことから始める。その際、根拠を明らかにしながら話すことや、自信のない子も尊重されているクラスの雰囲気を大切にしていきたい。また、指名発言、生徒による相互指名、自由発言、この子の考えを聞きたいというリクエスト発言など、さまざまな発言スタイルによる話し合い展開することで、一人一人が考え、自分の意見を伝えられるようにしたい。

展開前段では、靖夫の問題もあるが、クラスの状況がどうなっていかなければならないかを考えていく。その際、「背景にあるクラスの状況は崩壊寸前」「靖夫を含め、これほどまでにクラスの成員がばらばらな状態でいることは不自然」「いったい担任は、生徒の様子を把握しているのか」等の疑問を取り上げることで、本当に考えさせたい価値（信頼）を浮き彫りにさせながら考えていく。

展開後段では、２年６組をより居心地のよい学級にするために、一人一人が大事にしていかなければならないと考えたことを伝え合うことで、今後の日常生活にもつなげていきたい。そして、今一度、みんなで協力することの大切さを考えていきたい。

４　指導計画（１時間完了）

５　本時の指導（１／１）

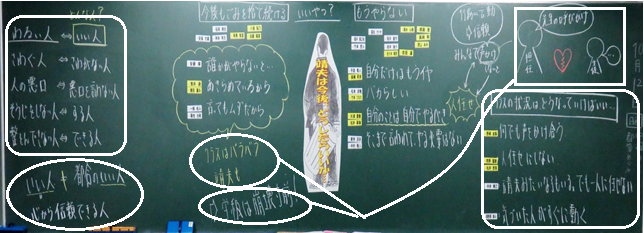
|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 学習の目標（内容項目　C－（15）　よりよい学校生活）  人任せにすることなく、集団の一員としてできることを考えて行動するという心と態度を育てる。  １　学校生活の中で「わるい人」「いい人」の人間像を比べ、何が「いい人」なのか聞く。  ２　資料を読み、「靖夫は今後、どうしたらいいのか」自分の立場を明確にして話し合う。  クラスの状況がどうなっていかなければならないかを考えよう！  ３　個人で考えた後、グループで自分の考えを伝え合い、全体で考えを共有する。  ◎「個」の困り感に寄り添う支援   |  |  | | --- | --- | | 生徒の様子 | 支　　援 | | 考えが浮かばない生徒を生まないために | 学級の背景にあるクラスの状況を押さえることで、これらの視点から考えるように促す。   1. 靖夫を含め、これほどまでにクラスの成員がばらばらな状態でいることの不自然さ。   　・「靖夫はクラスメイトを信頼していますか。」  　・「どうして、クラスメイトは靖夫を手伝おうとしないのかな。」   1. 担任と生徒の信頼関係は成り立っているのか。   ・「生徒は教師の言葉に耳を傾けようとしているのかな。」  ・「教師はクラスの状況を把握しているのかな。」   1. 学級崩壊寸前であること。   ・「①、②のような学級の状態を何というか知っていますか。」 |   ４　２年６組をより居心地のよい学級にするために、一人一人が大事にしていかなければならないと考えたことを伝え合う。  ５　教師による説話（いい人≠都合のいい人）を聞き、感想を書く。 |

評価（内容項目　C－（15）　よりよい学校生活）

人任せにすることなく、集団の一員としてできることを考えて行動するという心と態度を育てることができたかを今後の実践で評価する。

板書計画（予想される意見や考え）

【導入】「いい人とは？」何がいい人なのか？



【展開】クラスの状況打開策を考える

【展開】子どもの考えをもとに、クラスの背景（デフォルメ）を押さえていく。

【終末】授業で学んだ「いい人」をまとめる。

高評